# キャンプ×ワーケーションによる
# 関係人口の創出

FLP 地域・公共マネジメントプログラム

山﨑ゼミ

A 生

池田　明日香

江原　千尋

佐々木　小夏

髙橋　晴也

# 目次

1. はじめに

2. 課題発見

2. 1. 駒ヶ根市の現状分析
2. 2. 駒ヶ根市の課題

3. 調査報告

3. 1. 市役所商工観光課へのヒアリング調査報告
3. 2. 中央アルプスリゾート株式会社へのヒアリング調査報告

4. 先行事例

5. 政策提言

6. おわりに

参考文献

## １．はじめに

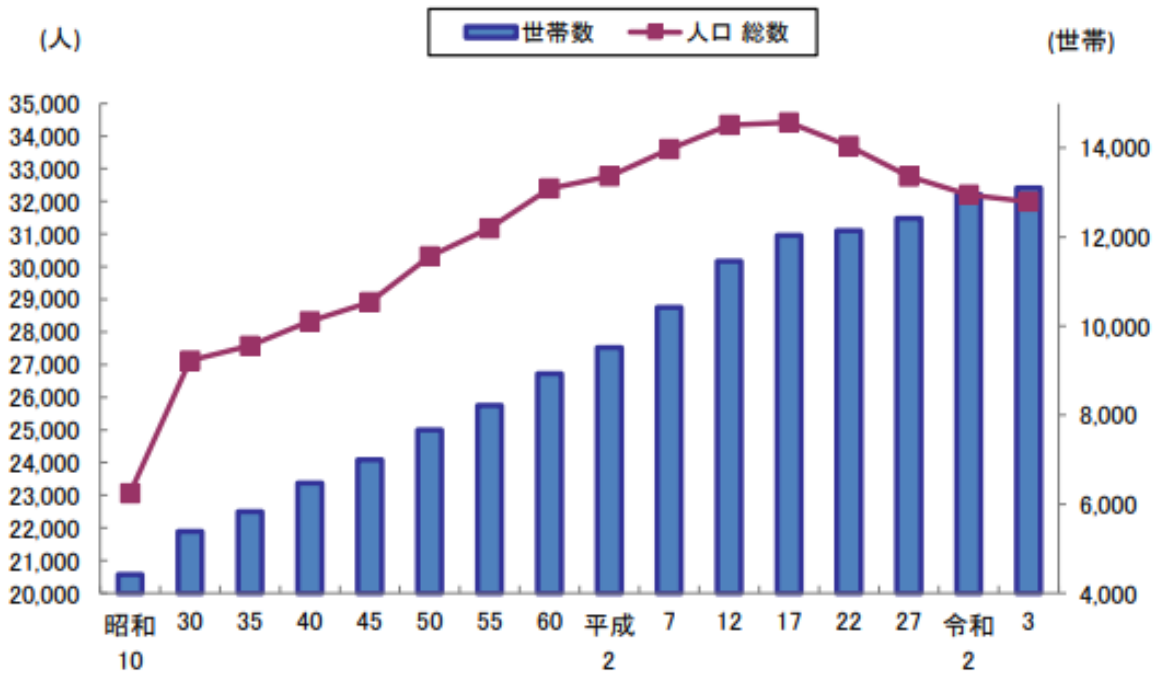
本報告書は、駒ヶ根市が抱える社会的課題の発見およびその解決のための政策提言をとりまとめたものである。FLP 山﨑ゼミでは「人口減少時代における地域創生」をテーマに研究している。そのなかで、私たちは、駒ヶ根市に多いキャンプ場に注目した。コロナ渦で普及したワーケーションを近年人気となっているキャンプと掛け合わせる取り組みについて議論することは、駒ヶ根市の抱えている課題解決に役立つのではないかと考えた。以下、サマースクールに関する調査活動等から得られた知見をもとに検討した研究内容および政策提言について報告する。

## ２．課題発見

本研究が対象地域としている駒ヶ根市についての現状分析を行った。以下、駒ヶ根市の課題発見に至った経緯について報告する。

### 2.1. 駒ヶ根市の現状分析

**図表 1-1　人口と世帯数の推移**

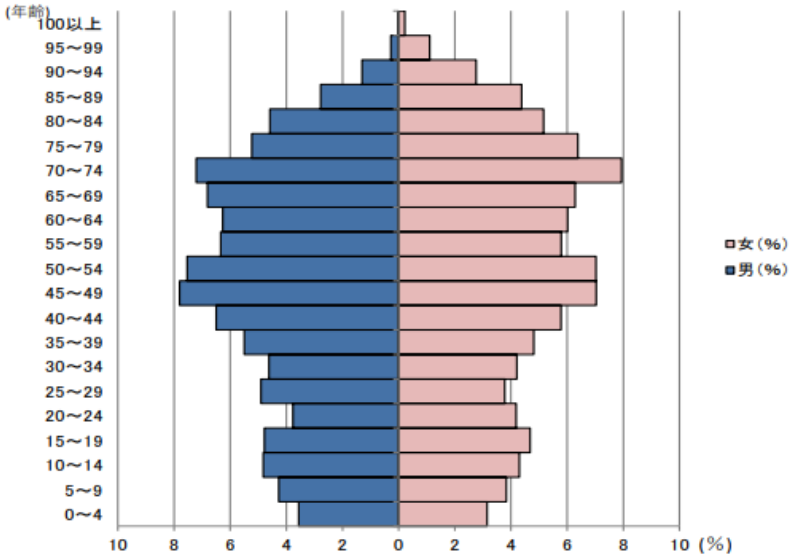



出典：駒ヶ根市公式 HP「駒ヶ根市の統計」

まず、駒ヶ根市の人口の推移に着目する。

図表 1-1 は昭和 10 年から令和 3 年までの人口推移を示したグラフである。駒ヶ根市は昭和 10 年頃から長年増加傾向にあったが、平成 17 年を境に人口が減少傾向にある。

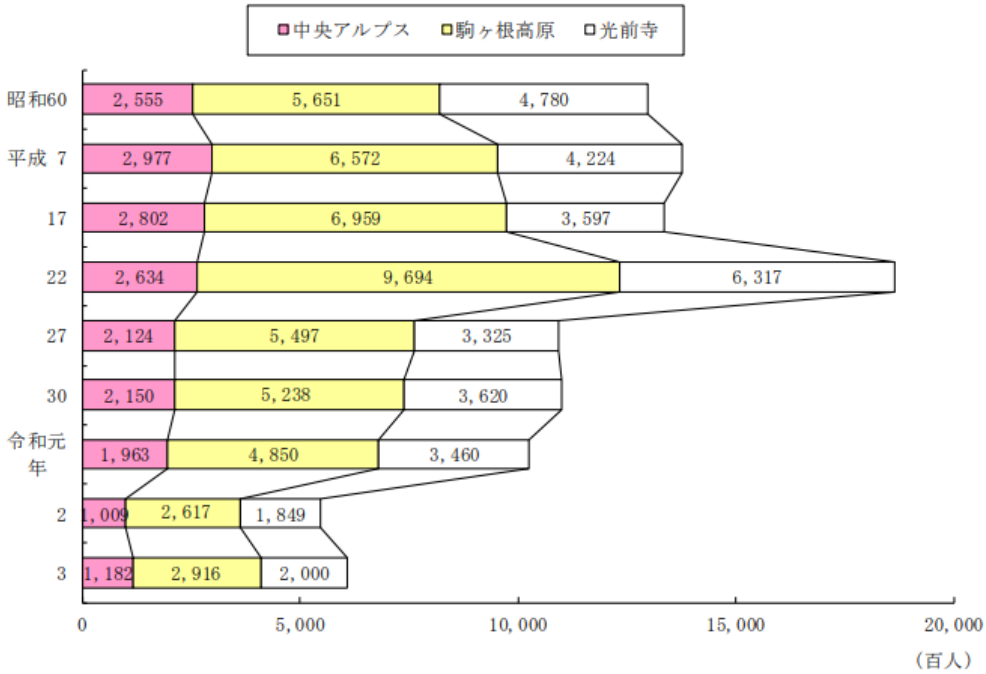
図表 1-2　人口ピラミッド（令和 3 年）




出典：駒ヶ根市公式 HP「駒ヶ根市の統計」（P. 9）

また、図表 1-2 より、男女ともに若年層、特に 20 代の人口が少ないことがわかる。大学進学や就職を機に駒ヶ根市から転出する人が多くいることが推察される。人口の多い世代は団塊の世代である 70 代やその子供の世代である団塊ジュニアの 40 代後半から 50 代にかけてである。

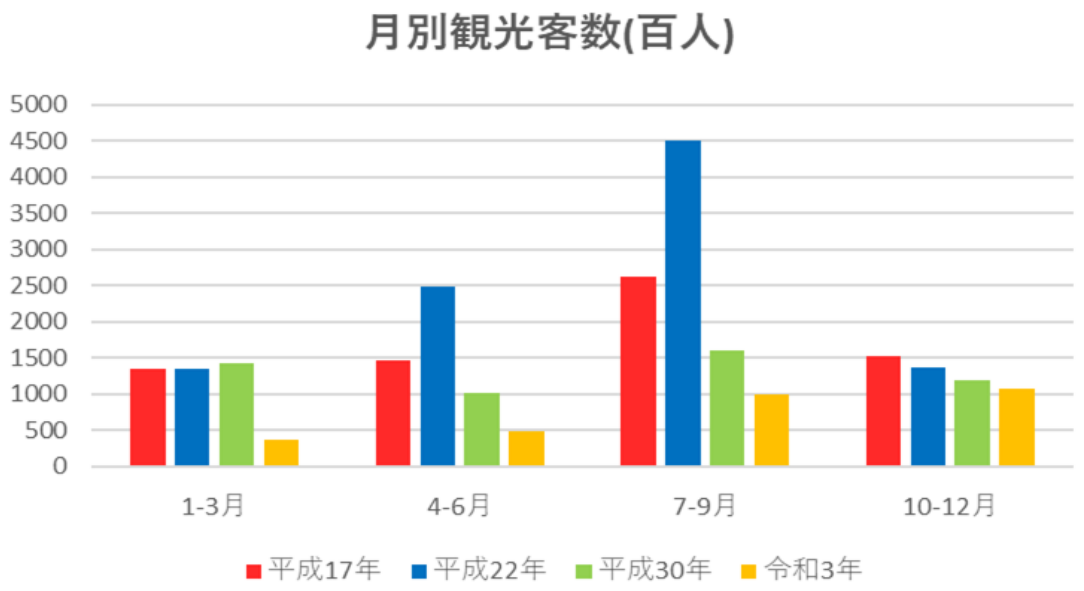
図表 2-1　観光客の推移




出典：駒ヶ根市公式 HP「駒ヶ根市の統計」（P. 29）

図表 2-1 は駒ヶ根市の 3 つの観光スポットの観光客の推移をまとめたものである。駒ヶ根高原を中心に多くの観光客が集まっている。令和 2 年にはコロナウイルス流行により観光客数が大きく減少したが、翌年にはやや増加し、ポストコロナ時代へ移っている今後も増加すると推察される。

**図表 2-2　月別観光客数**



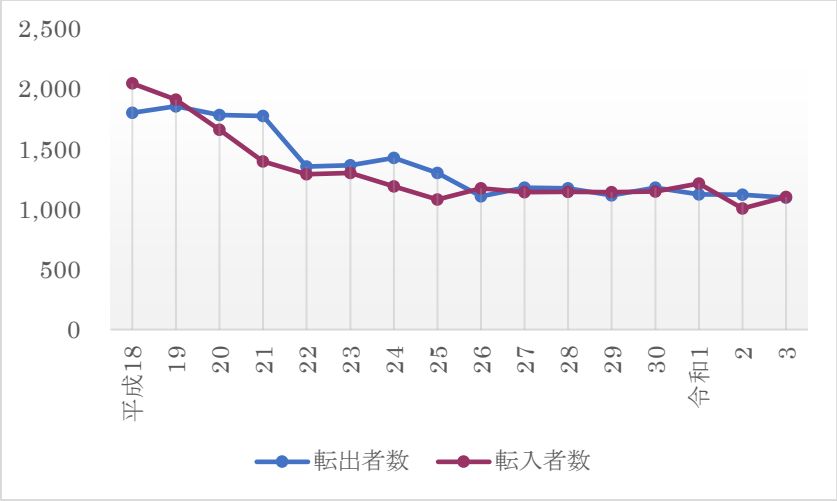

出典：駒ヶ根市公式 HP「駒ヶ根市の統計」(P. 29)より筆者作成

図表 2-2 では駒ヶ根市の月別観光客数を示している。冬季よりも夏季の観光客数が多いことがわかる。これは駒ヶ根市の観光が山を目的とする登山客が多いことに由来すると推察する。さらに、高山植物や紅葉を見ることができるため夏・秋は繁忙期である。

## 2.2. 駒ヶ根市の課題

本研究において発見した課題は「人口特に若年層の減少による消費や労働力の減少、地域の担い手不足やコミュニティ機能の低下」である。駒ヶ根市には、特定の季節に観光客を一定数集められる観光スポットは存在しているものの、定住人口や関係人口に結びつくような観光施設は少なく、若年層の転出もあり、コミュニティの希薄化が進展していると考えられる。

図表 3　社会動態による人口推移




出典：駒ヶ根市公式 HP「駒ヶ根市の統計」(P. 14)より筆者作成

図表 3 は、駒ヶ根市の社会動態による転出・転入者数を示したものである。全体的に減少傾向であるが、転入者数は令和 3 年、4 年と増加しており、今後も上昇の可能性はあると推察される。そこで私たちは駒ヶ根市の課題を解決するためには、この転入者数を増加させ、さらに駒ヶ根市に中長期滞在者などの新しい人々を取り込み、関係人口を包摂した新しいタイプの地域コミュニティを形成することが必要であると考えた。

## ３．調査報告

本章では、駒ヶ根市で行った 2 つのヒアリング調査の報告を行い、駒ヶ根市が中長期滞在者を増やすための取り組みやキャンプ場の現状について述べる。

### 3.1.　市役所商工観光課へのヒアリング調査報告

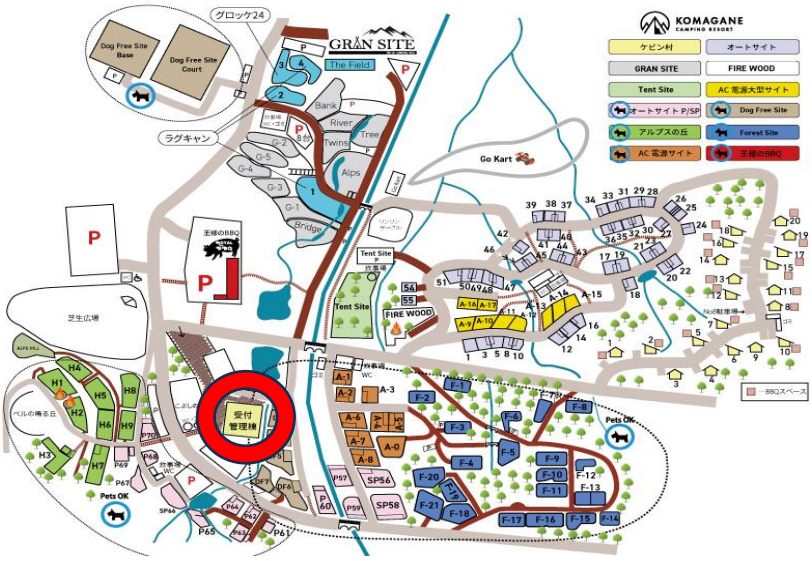
駒ヶ根市では平成 29 年に駒ヶ根テレワークオフィスを開設した。ここは子育て世代の母親の就労支援として設立した経緯があり、利用者は補助金などがでるため母子家庭・子育て世代が多くなっている。市・青年海外協力協会 JOCA・オリエントトラベルが主体となりワーケーションを推進し、ほかにも駒ヶ根観光協会や早太郎温泉事業組合、国際協力機構 JICA などの外部団体と連携し、ワーケーションを積極的に誘致している。駒ヶ根ワーケーションは仕事（Work）及び観光（Vacation）、教育（Education）、地域貢献　（Contribution）の要素を組み込み、リモートワークに加え駒ヶ根の魅力を知ってもらう仕組みになっている。実際に駒ヶ根高原に Wi-Fi を設備し、実証実験なども行っている。観光客数の多い時期を考慮し行ったモニターでは、キャンプ場の体験や親子で参加するプランの体験など多様なプランを実施し、リピーター獲得にもつながった。このような機会をきっかけに駒ヶ根市に興味をもってもらった人へ移住を視野に入れた案内や移住経験者との交流なども行っている。移住をした人の就職先は製造業が多い。駒ヶ根市は工場誘致も行っている。駒ヶ根市において減少した仕事は、新型コロナウイルス感染症の影響によるホテルなどの観光系の仕事で

ある。観光系の仕事は、土日に関係なく仕事があるため、移住者の働き方のニーズと一致していない点が課題となっている。

3.2. 中央アルプスリゾート株式会社へのヒアリング調査報告

この会社は駒ヶ根市外も含めスキー場 2 つとキャンプ場 4 つを経営している。私たちは 4 つのうちの 1 つである家族旅行村というキャンプ場を訪れた。家族旅行村はゴールデンウィークとお盆が繁忙期であり、冬季はスキー場の運営を行っているためキャンプ場は閉業している。ターゲットはファミリー層であり、ここ 1、2 年では関東圏特に神奈川からの観光客が増えている。また、このキャンプ場の強みは、温泉を有している点にある。サウナの導入や企業とのタイアップなどは、来場者数や売上の増加に貢献している。

図表 4　家族旅行村場内マップ




出典：駒ヶ根 CampingResort by 駒ケ根家族旅行村

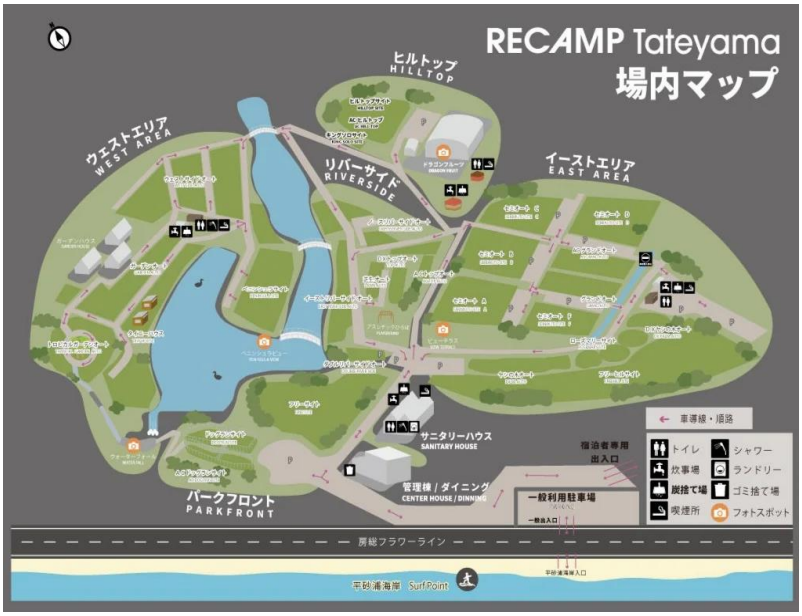
家族旅行村の面積 36ha のうち 3 分の 1 がサイトとして利用され、そのサイト数は 150 に及んでいる。家族旅行村は、ゾーニングを行い、テーマごとにサイトを区画している。図表 4 は、それを表したものである。サイトごとにタイプや値段が異なるため、多様なニーズに対応できる。しかし、ワーケーションにおいて決定的に重要とある Wi-Fi 利用には、課題がある。Wi-Fi を利用できるエリアは、図表 4 の赤丸印が付いている管理棟の周辺のみであり、現在 Wi-Fi を利用したい人には管理棟の周辺でワーケーションを行ってもらっている状況である。Wi-Fi の利用範囲拡大は需要があるものの、整備費用の面から難航している。

## 4．先行事例

ここからは当ゼミが実際に調査したキャンプ場についての先行事例とワーケーション施設の事例を紹介する。

はじめに、ICT を活用した RECAMP 館山という施設を紹介する。近年のキャンプブームを受け、全国に新しいキャンプ場が誕生する中でこのキャンプ場で注目されるのは ICT の導入という点にある。来訪者の対応と施設の運営に関わる一連の業務に対する人手不足やキャンプ場周辺地域の情報発信が十分でないという課題がみられた。そこに ICT を導入することによって課題解決へとつながっている。たとえば以下のような業務を ICT でまかなっている。「スマートチェックイン」による受付業務の無人化や「スマートストア」による物販業務の無人化である。また、スマートフォンアプリでキャンプ場周辺地域への誘客・地域活性化も行っている。キャンプ場は、以前から労働力の確保が難しいという課題があった。そのため、「スマートチェックイン」導入により受付業務の効率化を図り無人化した。その結果、スタッフを他の業務に当てることを可能とするだけでなく繁忙期の稼働集中を緩和することに成功している。来訪者側にも受付の待ち時間解消や非接触の実現、自由なチェックイン/アウトができるというメリットもある。物販業務の無人化を実現する「スマートストア」では移動が容易なトレーラーハウス型の店舗をキャンプ場内に設置し、入店から決済まですべての動作を ICT 化することによって無人運営を実現している。キャンプ場では、モノを買ったりレンタルしたりする売り上げも多い一方で物販業務にかかる人員不足も問題視されていた。労働力の確保が難しい中で「スマートストア」の導入による課題解決はキャンプ場運営に新たな可能性を見出している。ICT を活用したキャンプ場整備は人手不足などの課題を解決する糸口となる。

図表 5　RECAMP TATEYAMA 場内マップ




出典 ： RECAMP 館山｜ 株式会社 Recamp

次に今回私たちが提言したキャンプ×ワーケーションについての情報収集として実際にフィールドワークで訪れたワーケーション施設について紹介する。
今回紹介するテレワーク施設は石垣島にある「チャレンジ」と「クラッチ」である。以下でそれぞれの施設について細かく紹介する。

一つ目の「チャレンジ」は、レンタルスペースを設けた石垣島最大のテレワーク施設となっている。島内外の地域や世代を超えた人々がつながって、島の魅力や新しい価値観に触れながら様々なプロジェクトにチャレンジできる、まさに沖縄のチャンプルー文化を体現する石垣島の発信拠点としてつくられた。高速 Wi-Fi/電源/各種機材/ワーキングスペース・会議室/イベントスペース/フードスペースなど、快適に仕事のできる環境が整備されている。

**図表６　チャレンジ施設**

出典：施設紹介-https://challenge.kayac-zero.com/facilities/#spaceList

・ドロップイン
　フリー席：3 時間プラン／1 日プラン／ナイトプラン
3 時間プランの場合
9:00 － 18:00　1,500 円　※島割 1,200 円

1 日プランの場合
9:00 － 21:00 2,000 円　※島割 1,700 円

ナイトプラン（new）
17:00 － 21:00 1,500 円　※島割 1,200 円
ワーケーションプラン
9:00 － 21:00　7,000 円/週　　14,000 円/月

・レンタルスペース(要予約)
　　会議室／イベントスペース／テラススペース
　　ブース席／固定席
※ 島割：石垣市もしくは竹富町にお住まいの方

二つ目の「クラッチ」では、いくつかのコンセプトに分かれた部屋がおかれ畳の空間や飲食スペースなどリラックスできる空間でのテレワークが可能である。

図表７　クラッチ施設

出典：施設紹介 - コワーキングスペース KLATCH Ishigaki (workation-lab.com)

| |
|---|
| ・ドロップイン<br>月～日 8:30-22:00<br>※受付は 8:30-17:00　　¥500/時間<br>→島割 ¥250/時間<br>・１DAY<br>月～日 8:30-22:00<br>※受付は 8:30-17:00　　¥1,500/日<br>→島割 ¥1,000/日<br>※島割：石垣島にお住まいの方 |

観光地でのテレワーク施設の充実により、平日はリモートで働きながら休日は観光をするといったように長期滞在者の獲得が可能になると期待できる。普段の生活とは違う場所で自然に囲まれながら働くという点で利用者側のメリットも大きい。テレワーク施設は短期リフレッシュ型ワーケーションからローコスト長期滞在型ワーケーションを実現可能とする。コロナ渦を経て働き方が多様化した時代にテレワークによる観光地での新たな誘客が見込める。

## ５．政策提言

本章では、駒ヶ根市のキャンプ場にコワーキングスペースの併設を提案する。ワーケーションなどの観光の新しいスタイルは国によっても推奨されており、令和 2 年に開催された観光戦略実行推進会議では、ワーケーションの促進普及を取り上げており、ワーケーションへの注目は高まった。

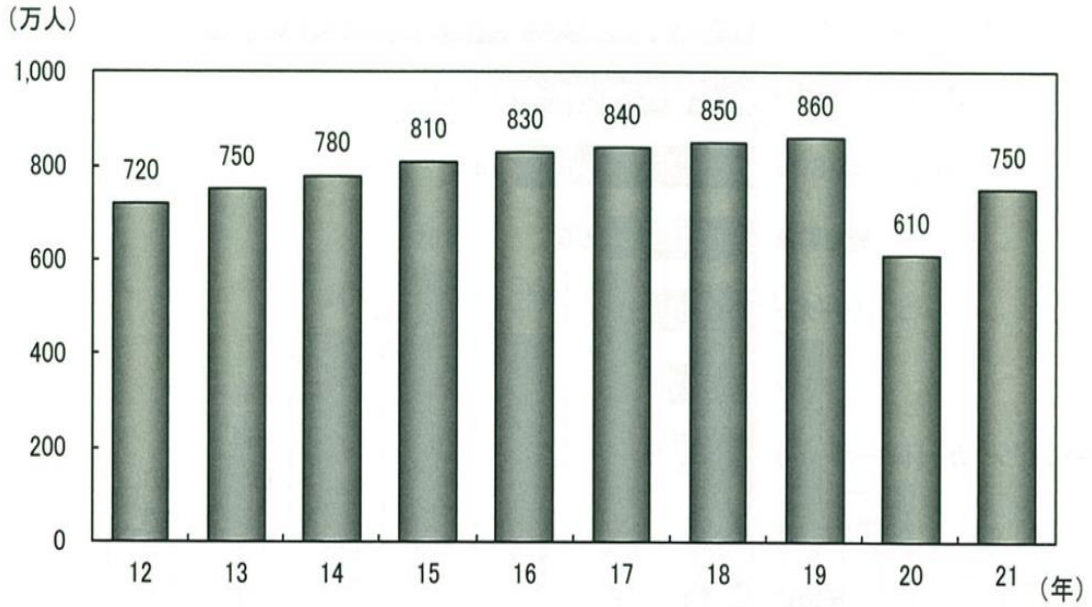
環境省の令和 2 年度第一次補正予算案では、「国立・国定公園、温泉地でのワーケーションの推進事業」が提示された。これにより 501 件が採択された。また、コロナ禍により柔軟な働き方やテレワークが浸透し、観光庁は令和 3 年度から「新たな旅のスタイル」として、ワーケーションと※ブレジャーを推奨している。内閣府では平成 29 年度より東京オリンピックの開会式が予定されていた 7 月 24 日を「テレワーク・デイ」とし、企業等による全国一斉のテレワークの実施を呼びかける取組みを行ってきた。都市部から地方への人や仕事の流れを創出し、地方創世の実現へとつなげるべく、地方ではテレワークやワーケーションの誘致に向けた取組みが進んでいる。

※ブレジャーとは business(ビジネス)と leisure(レジャー)を組み合わせた造語、出張などの滞在を延長し余暇を楽しむこと

まずは、キャンプ場にコワーキングスペースを併設するという提案に至った理由を 4 点説明する。

(1) 近年のキャンプ人気

**図表８　オートキャンプ参加人口の推移（推定値）**




出典：日本オートキャンプ協会『オートキャンプ白書 2022』

図表 8 はオートキャンプ参加人口の推移を示したものである。2020 年の新型コロナウイルス感染症流行前は、キャンプ人口は増加傾向にあり、キャンプ人気は右肩上がりであった。しかし、2020 年に新型コロナウイルス感染症が流行すると、外出自粛などの行動制限がかかりキャンプ人口は減少する。ところが、徐々に感染症の流行が収束し、行動制限が緩和されると、コロナ禍でも密を避け、感染対策をしながら楽しめるアウトドアが人気を高め、キャンプ人口も回復傾向になった。今後、キャンプ人口は新型コロナウイルス感染症流行前の水準に戻り、さらに増加していくことが見込まれる。

(2) 駒ヶ根の自然

駒ヶ根市の豊かな自然に着目した。駒ヶ根市からは、西に中央アルプス、東に南アルプスという高い山々に囲まれた絶景を望め、都市部では味わえないロケーションで仕事をすることが可能である。閉鎖的なオフィスではなく、開放的な空間で仕事をすることで心身をリフレッシュできる。

(3) IC からの利便性

**図表９　駒ヶ根市と高速道路の位置関係**

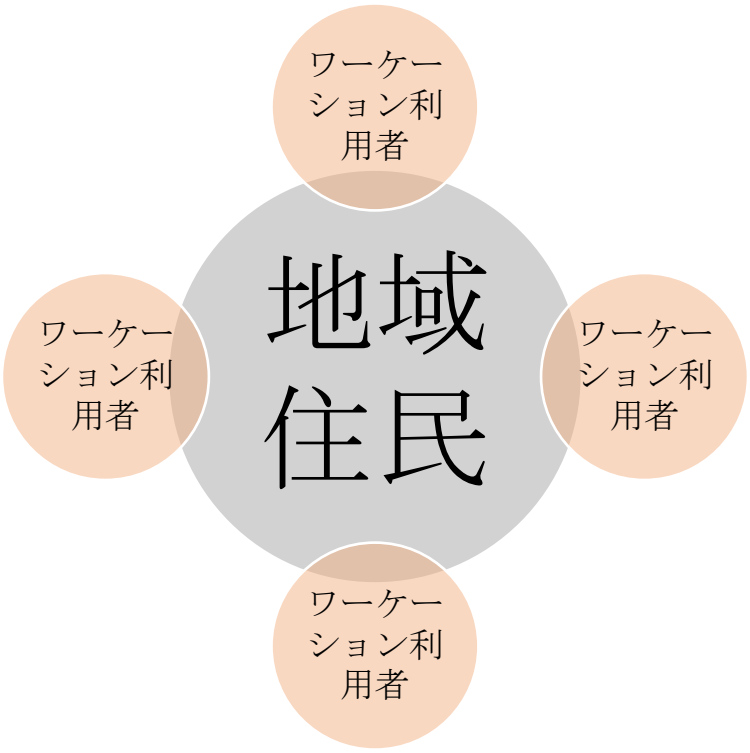
出典：駒ヶ根観光協会オフィシャルサイト

アクセス｜信州駒ヶ根ガイド｜一般社団法人駒ヶ根観光協会オフィシャルサイト (kankou-komagane.com)

図表 9 は駒ヶ根市と周辺の高速道路の位置関係を示したものである。駒ヶ根市には中央自動車道が通っており、駒ヶ根 IC がある。中央自動車道が通っていることで、東京方面や名古屋方面からのアクセスが良い。そして、駒ヶ根で最も人気の高い観光スポットである駒ヶ根高原へは、中央道駒ケ根 IC から車で約 5 分である。このように、IC が中心地近くにあるため、利用者は非常に利便性が高い。また、駒ヶ根駅からは高速バスも出ており、新宿からは約 3 時間 30 分、名古屋からは約 2 時間 30 分、大阪からは約 4 時間 40 分で到着する。電車よりも車や高速バスでの訪問客が多いため、車利用者のニーズに合った立地が必要である。

(4) 地域住民との関係性

**図表 10　地域住民とワーケーション利用者の関係性**

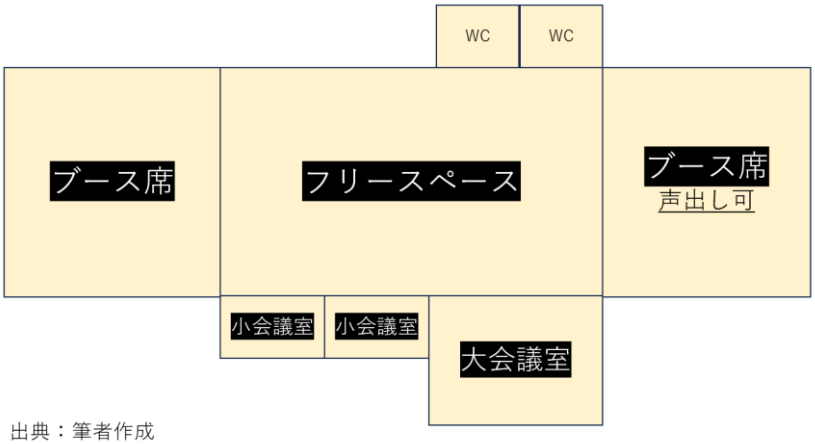



出典：筆者作成

図表 10 は地域住民とワーケーション利用者の関係性を示している。単にワーケーションのみの利用に制限することなく、地域住民も気軽に利用できるキャンプ場にすることで、まずは地域住民のコミュニティ形成の一環にする。そして、外部から来たワーケーション利用者がキャンプ場やコワーキングスペースで、地域住民とコミュニケーションを取ることで地域住民との交流ができる。これには地域住民の協力も必要であるが、訪問者は地域住民との交流を通じて、駒ヶ根に興味を持ち、再訪問や移住に繋がるのではないかと考える。

以上 4 点が、キャンプ場にコワーキングスペースを併設するという提案に至った理由である。

図表 11　コワーキングスペース設備案




出典：筆者作成

図表 11 は併設するコワーキングスペースの設備案である。Wi-Fi を完備し、コワーキングスペースのみの利用を可能とする。作業に集中できるブース席、オンライン会議も可能な大会議室、小会議室を設ける。その他各ブースを繋ぐ場所として、中心にフリースペースを設置し、利用者のコミュニケーションを深める場とする。キャンプ場利用者には割引制度を設け、利用促進をはかり、より柔軟な誘致を実現する。

駒ヶ根市の魅力発信を目的として、関係人口創出の課題を解決するために、わたしたちはキャンプ場にコワーキングスペースを併設することを提言した。

はじめに、市内へのアクセスを活かし、使用していない土地の活用を行い新たな収益を生み、オフシーズンの観光誘致、空き地の荒地化を防ぐことができる。

また、近年増加するふるさと納税の返礼品に、魅力的なワーケーションプランを設定し、駒ヶ根市に人を誘導し、関係人口の増加に繋げることができる。

そして、キャンプ場をバリアフリー化し、地域住民が気軽に訪れることができる場所にし、ハンディを持った地域住民も気軽に参加できるイベントを定期開催し、地域を盛り上げることもできる。

このように、キャンプとワーケーションを組み合わせることで、駒ヶ根市の人口減少、コミュニティ低下といった課題を解決できる。

## ６．おわりに

ここまで、国がワーケーションを推奨していることや、地方でのワーケーションの成功例、駒ヶ根市にワーケーションが適していると述べてきた。地域住民が定期的に利用できるほか、都心から駒ヶ根市に利用者を誘致できるキャンプ場にワーケーション施設を併設することは、駒ヶ根市の関係人口創出に適しているといえる。

しかし、今回の調査で残された課題もある。使用していない土地の権利関係、施設を新設するための費用が必要である。健全な財政がなければキャンプ場の整備とワーキングスペースの建設は難しい。当ゼミは今後も研究活動を続けていく。

〈参考文献〉

・駒ヶ根市公式サイト
総合トップ／駒ヶ根市アルプスがふたつ映えるまち（city.komagane.nagano.jp）
・家族旅行村公式 HP
駒ケ根 CampingResort by 駒ケ根家族旅行村｜駒ケ根 CampingResort by 駒ケ根家族旅行村（campingresort-komagane.com）
・駒ヶ根観光協会オフィシャルサイト
信州駒ヶ根ガイド｜一般社団法人駒ヶ根観光協会オフィシャルサイト（kankou-komagane.com）
・自治体オープンデータ　駒ヶ根市
駒ヶ根市(こまがねし)｜市区町村コード(20210)｜ 自治体オープンデータ（jpmarket-conditions.com）
・駒ヶ根市 - Google マップ
・キャンプ場にも ICT!? 「RECAMP 館山」が目指す地域活性化とは
キャンプ場にも ICT!? 「RECAMP 館山」が目指す地域活性化とは ｜ マイナビニュース（mynavi.jp）
・RECAMP 館山 HP
RECAMP 館山｜ 株式会社 Recamp
・チャレンジ石垣島公式 HP
テレワーク・ワーケーション・コワーキングスペース・レンタルスペース ｜ チャレンジ石垣島（kayac-zero.com）
・KLATCH Ishigaki 公式 HP
石垣島×ワーケーション ｜ コワーキングスペース KLATCH Ishigaki（workation-lab.com）
・石垣島最大規模のリモートワーク施設の二大拠点によるコラボ
「石垣島ワーケーションパス」販売決定！ ｜ 株式会社クラッチのプレスリリース（prtimes.jp）
・令和２年度（補正予算）国立公園・温泉地等での滞在型ツアー・ワーケーション推進事業費の間接補助事業の公募について ｜ 報道発表資料 ｜ 環境省（env.go.jp）
・「新たな旅のスタイル」ワーケーション&ブレジャー（mlit.go.jp）
・７月 24 日にテレワーク国民運動プロジェクト 「テレワーク・デイ」を実施します ｜報道発表資料｜厚生労働省（mhlw.go.jp）
・日本オートキャンプ協会『オートキャンプ白書 2022』